

平成9年度から平成12年度に実施された 親子で調べる身近な自然調査結果報告

永田幸志* 久米朋宣**

はじめに

神奈川県立自然保護センター(以下センター)では、身近な自然について家族で一緒に一定期間観察し、自然への興味・理解を深めると共に、あわせて県内の自然環境の変化を把握するためのデータを集めることを目的として、平成9年度から平成12年度まで「親子で調べる身近な自然調査」を実施した。調査結果は年度ごとにとりまとめて報告書を作成してきたが、ここでは、4年間の調査結果をとりまとめて報告する。

調査期間および方法

神奈川県在住の小学生から中学生のいる家庭を対象に調査員を公募し、毎年同一の調査をしていただいた。なお、総調査員数は、84名であった。

・動物についての調査

調査は平成9年度～12年度にかけて実施した。調査票(図1)により自宅のある場所の付近縦横1kmの四角形(標準地域メッシュ・システムによる3次メッシュ)の中を調査し、環境の指標となりやすく、ほとんどの人が知っていて、観察しやすい動物〔ツバメの仲間(ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメ)、白いチョウ(モンシロチョウ、スジグロシロチョウ)、タヌキ、

ハクビシン〕について調べた。調査にあたっては、調査員登録時に調査の手引きを配布し、調査内容、手法について調査員の知識が一定となるようにした。

・植物についての調査

調査は平成9年度～12年度にかけて実施した。調査票(図1)により自宅のある場所付近縦横1kmの四角形の中(統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード第3次地域区画メッシュ)を調査し、環境の指標となりやすく、ほとんどの人が知っていて、観察しやすい植物(タンポポ(カントウタンポポ、シロバナタンポポ、帰化タンポポ)、人里の植物(オミナエシ、ヒガンバナ、ミズヒキ)、帰化植物(セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ))について調べた。調査にあたっては、調査員登録時に調査の手引きを配布し、調査内容、手法について調査員の知識が一定となるようにした。

調査項目

1. ツバメの仲間の調査

- 1) 調査期間
- 2) 調査地でのツバメ、イワツバメ、コシアカツバメの目撃の有無
 - ・初めて見た日
 - ・最後に見た日
 - ・営巣場所
 - ・営巣場所の建物の材質
 - ・営巣の状態
 - ・具体的な営巣の位置
 - ・孵化回数
 - ・孵化数
 - ・巣立ち数

ただし、平成12年度はツバメ、イワツバメ、コシアカツバメを初めて見た日のみを記録した。

ツバメの飛来をしらべよう
200 年 月 日～200 年 月 日

観察方法
○ 観察する鳥は、必ず観察記録表に記載していただく。種類、ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメ。
○ 観察した場所の住所を記入していただく。住所は、必ず正確に記入してください。また、観察した日時も必ず正確に記入してください。

どんなツバメが飛来したか? (必ず観察記録表に記入)
 * ツバメ・・・○ 月 日に初めて見た。 ○ 今のことろ飛んでいない。
 * イワツバメ・・・○ 月 日に初めて見た。 ○ 今のことろ飛んでいない。
 * コシアカツバメ・・・○ 月 日に初めて見た。 ○ 今のことろ飛んでいない。

※ 観察が難しいと思われる場合は、観察記録表に記入してください。
 * 営巣のツバメ・・・○ 月 日に初めて見た。 ○ 今のことろ飛んでいない。
 * 営巣場所

以上の観察記録表を記入していただく。記入方法は、観察記録表の裏面にあります。

図1 調査表の例

*神奈川県自然環境保全センター自然保護公園部野生生物課

**神奈川県自然環境保全センター自然保護公園部自然保護課

2. 白いチョウの調査

1) 期間

2) 調査地でのモンシロチョウ、スジグロシロチョウ、その他のチョウの目撃の有無

ただし、平成12年度は調査を実施しなかった。

3. タヌキとハクビシンの調査

1) 調査期間

2) 調査地での目撃の有無

ただし、平成12年度は調査を実施しなかった。

4. タンポポの仲間の調査

1) 調査期間

2) 調査地でのカントウタンポポ、シロバナタンポポ、帰化タンポポの目撃の有無及び目撃地点数

3) 生え方

4) 生えている場所

ただし、本調査では、アカミタンポポとセイヨウタンポポの判別が時期によっては困難であることから、両者を併せて帰化タンポポとした。

5. 人里の植物の調査

1) 調査期間

2) 調査地でのオミナエシ、ヒガンバナ、ミズヒキの目撃の有無及び目撃地点数

3) 生え方

4) 生えている場所

ただし、本調査では、ミズヒキとシンミズヒキの判別が困難であることから、両者を併せてミズヒキとした。

6. 帰化植物の調査

1) 調査期間

2) 調査地でのセイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサの目撃の有無及び目撃地点数

3) 生え方

4) 生えている場所

調査結果

1. ツバメの仲間の目撃情報

1-1. ツバメの仲間の目撃

調査期間は、4月1日から11月30日までの8ヶ月間で調査員に指示した。調査員によって調査期間は異なったが、概ね4月から11月まで行なわれた。調査された累計メッシュ数およびツバメ、イワツバメ、コシアカツバメの目撃調査結果を表1に示した。累計の目

表1 ツバメの仲間の各年度の目撃記録

種名	年度	単位:メッシュ			
		いた	いない	わからない	未記入
ツバメ	H9	24	1	1	1
	H10	13	0	1	0
	H11	6	1	0	0
	H12	12	0	0	0
	累計	55	2	2	1
イワツバメ	H9	2	10	8	7
	H10	0	8	3	3
	H11	0	4	0	3
	H12	2	0	0	10
	累計	4	22	11	23
コシアカツバメ	H9	1	10	9	7
	H10	0	8	5	1
	H11	1	3	0	3
	H12	0	0	0	12
	累計	2	21	14	23

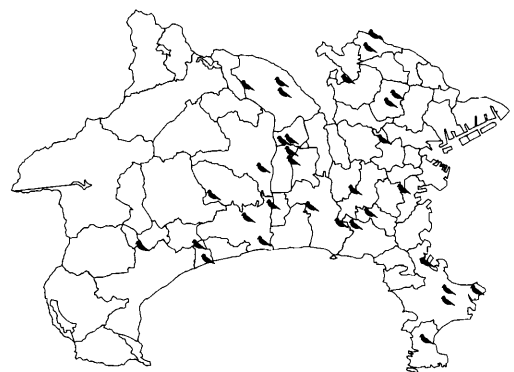


図2 ツバメの目撃された場所

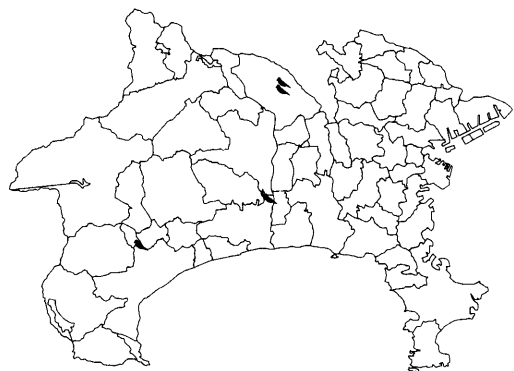


図3 イワツバメの目撃された場所

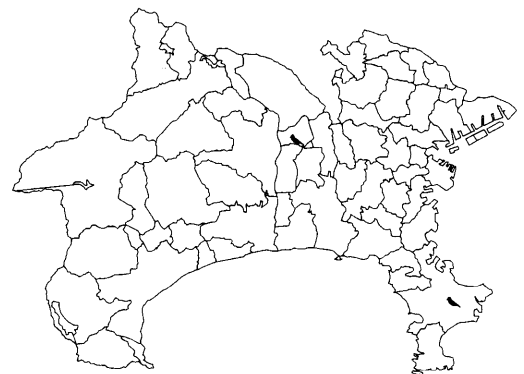


図4 コシアカツバメの目撃された場所

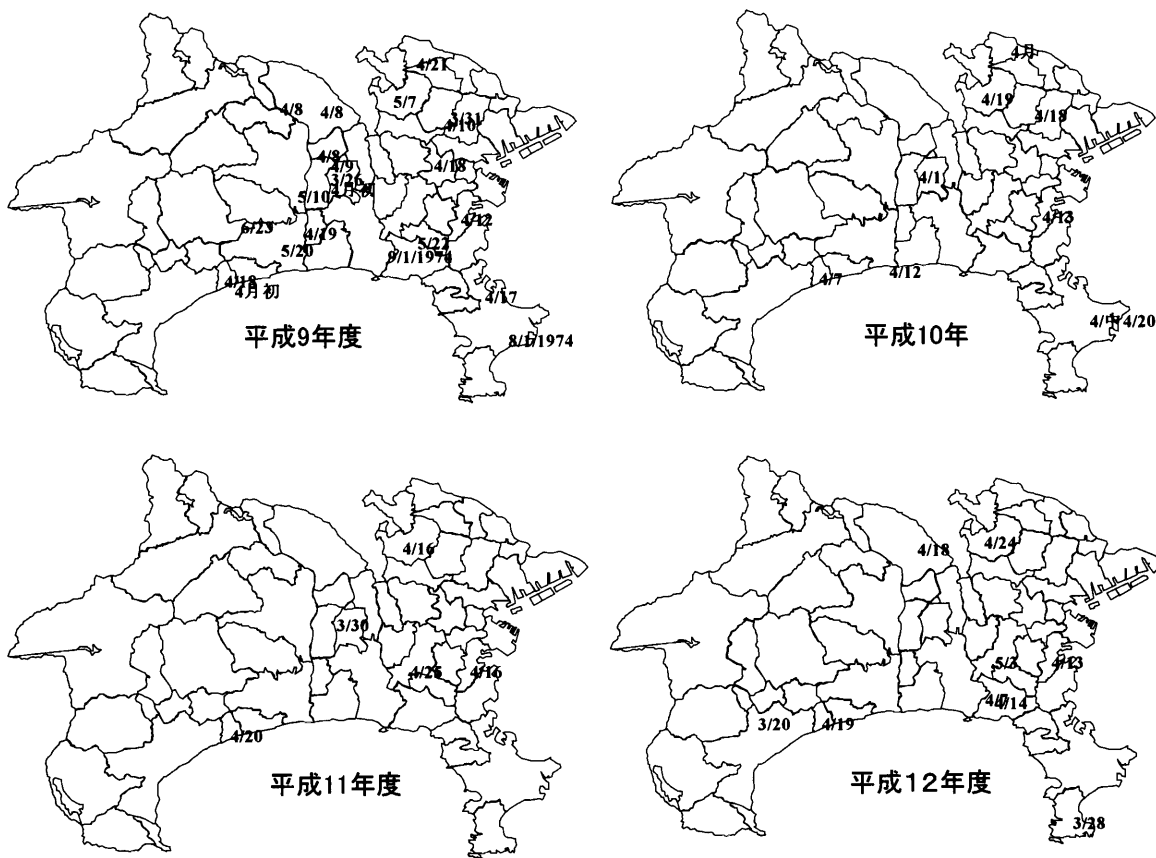


図5 ツバメを初めて見た日

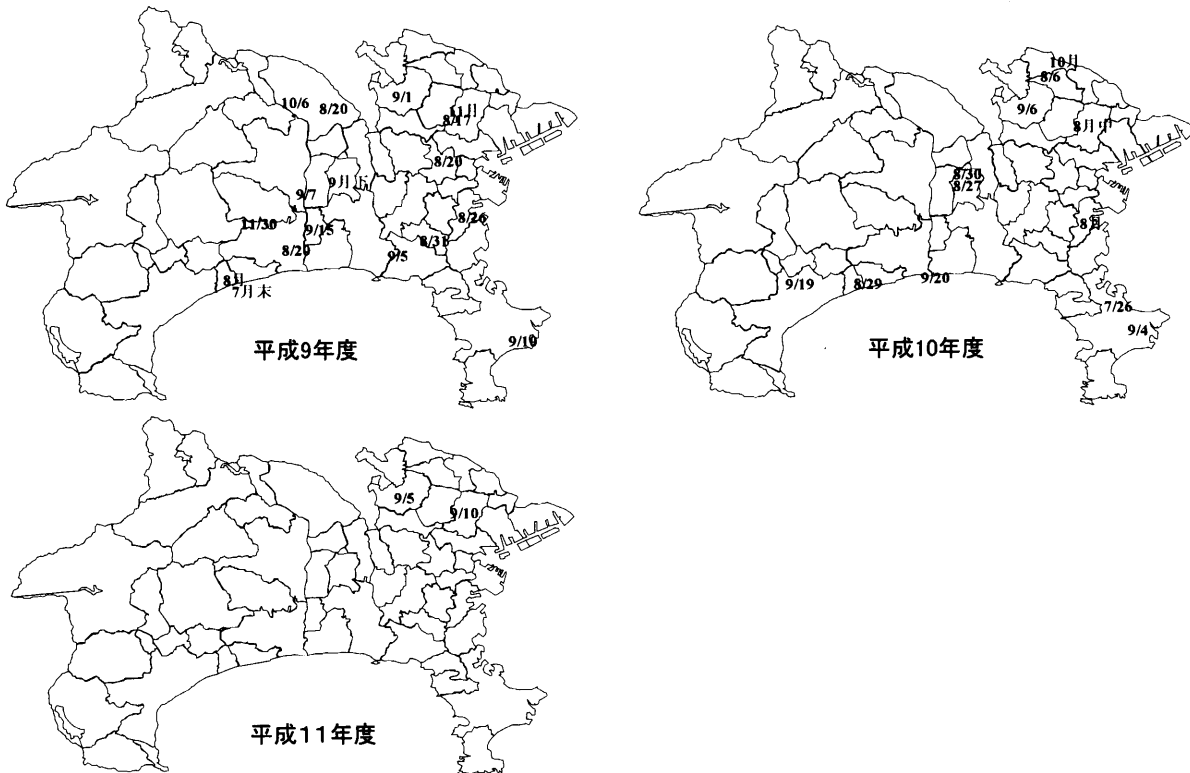


図6 ツバメを最後に見た日

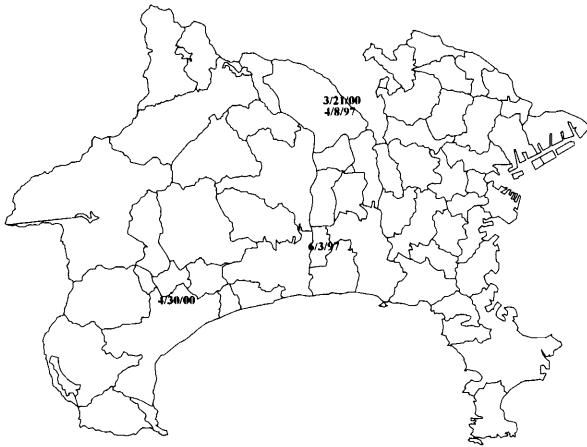


図7 イワツバメを最初に見た日

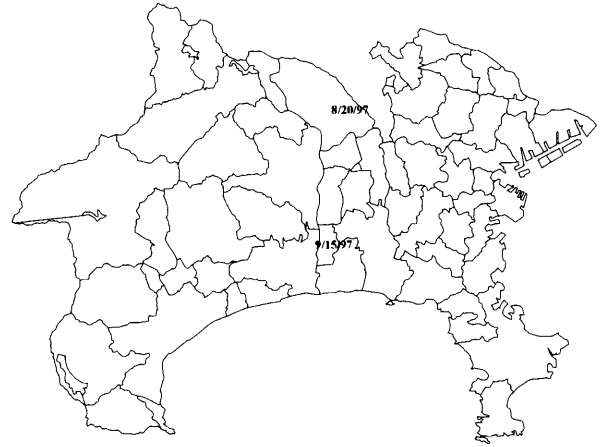


図8 イワツバメを最後に見た日



図9 コシアカツバメを最初に見た日



図10 コシアカツバメを最後に見た日

撃記録は、ツバメは「いた」が55メッシュ、「いない」が2メッシュ、「わからない」が2メッシュ、「未記入」が1メッシュであった。イワツバメは「いた」が4メッシュ「いない」が22メッシュ、「わからない」が11メッシュ、「未記入」が23メッシュであった。コシアカツバメは「いた」が2メッシュ、「いない」が21メッシュ。「わからない」が14メッシュ、「未記入」が23メッシュであった。ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメについて、4年間に一度でも目撃情報の得られた場所を図2～図4に示した。

1-2. ツバメの仲間が初めて見られた日、および最後に見た日

各年度で、ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメを初めて見た日、最後に見た日について、それぞれ図5～図10に示した。

1-2. ツバメの営巣状況について

1-2-1. 営巣場所

営巣場所について3年間の情報をまとめた結果を図11に示した。商店への営巣が最も多く全体の36%を